

垂直離着陸輸送機MV-22オスプレイ沖縄配備撤回を求める意見書

世界で最も危険な軍用輸送機とされるMV-22オスプレイの在沖縄海兵隊基地への配備が、今年7月にも現実化されようとしている。

MV-22オスプレイは、計画開発段階において、数々の墜落死亡事故等のトラブルを引き起こし、2007年に実戦配備された後も、2010年4月にはアフガニスタン、今年4月にはモロッコで墜落事故が発生した。同機は、危険性の懸念材料が多くあるにも関わらず、安全性を強弁していた日本政府が同機種の実地レビューを沖縄県に説明した直後に、米国本土で墜落事故を繰り返すなど、危険極まりない欠陥機である。このことから、同機の配備を強行に進めようとする日米両政府の姿勢は、県民を愚弄するものであり、断じて許されるものではない。

数多くのヘリパッドが存在するキャンプ・ハンセンには、現在でも昼夜を問わず海兵隊ヘリの離発着訓練が行われており、6月13日には金武ブルー・ビーチ訓練場内でヘリパッドが設置されていない場所での訓練が、金武町の度重なる抗議にも関わらず強行されている。また、マスコミ報道によると今後MV-22オスプレイの運用が、金武ブルー・ビーチ訓練場で年最大で1680回の訓練が想定されており、しかも、固定のヘリパッド以外の場所でも使用するという極めて身勝手な計画であり到底容認できない。

MV-22オスプレイが沖縄へ配備されれば、金武町全域で飛行訓練が行われるのは明確であり、それによって生ずる騒音被害、墜落事故への恐怖は計り知れないものがある。本議会は、昨年6月27日付けで同輸送機の配備反対を訴えたところであるが、何ら検討もされず、今回具体的に訓練計画の数値が示されたことに大きな憤りを覚えるものである。

よって、金武町議会は、町民の生命と財産を守る立場から、今般のMV-22オスプレイの沖縄配備に対し、満身の怒りを込めて抗議するとともに、下記事項の実現を強く要求し、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

記

1. 垂直離着陸輸送機MV-22オスプレイ沖縄配備を撤回すること

平成24年6月22日

沖縄県金武町議会

宛 先

内閣総理大臣

外務大臣

防衛大臣

沖縄・北方対策担当大臣

外務省特命全権大使（沖縄担当）

沖縄防衛局長

可決

平成24年6月22日
金武町議会議長 仲里全孝

垂直離着陸輸送機MV-22オスプレイ沖縄配備撤回を求める抗議決議

世界で最も危険な軍用輸送機とされるMV-22オスプレイの在沖縄海兵隊基地への配備が、今年7月にも現実化されようとしている。

MV-22オスプレイは、計画開発段階において、数々の墜落死亡事故等のトラブルを引き起こし、2007年に実戦配備された後も、2010年4月にはアフガニスタン、今年4月にはモロッコで墜落事故が発生した。同機は、危険性の懸念材料が多くあるにも関わらず、安全性を強弁していた日本政府が同機種種の環境レビューを沖縄県に説明した直後に、米国本土で墜落事故を繰り返すなど、危険極まりない欠陥機である。このことから、同機の配備を強行に進めようとする日米両政府の姿勢は、県民を愚弄するものであり、断じて許されるものではない。

数多くのヘリパッドが存在するキャンプ・ハンセンには、現在でも昼夜を問わず海兵隊ヘリの離発着訓練が行われており、6月13日には金武ブルー・ビーチ訓練場内でヘリパッドが設置されていない場所での訓練が、金武町の度重なる抗議にも関わらず強行されている。また、マスコミ報道によると今後MV-22オスプレイの運用が、金武ブルー・ビーチ訓練場で年最大で1680回の訓練が想定されており、しかも、固定のヘリパッド以外の場所でも使用するという極めて身勝手な計画であり到底容認できない。

MV-22オスプレイが沖縄へ配備されれば、金武町全域で飛行訓練が行われるのは明確であり、それによって生ずる騒音被害、墜落事故への恐怖は計り知れないものがある。本議会は、昨年6月27日付けで同輸送機の配備反対を訴えたところであるが、何ら検討もされず、今回具体的に訓練計画の数値が示されたことに大きな憤りを覚えるものである。

よって、金武町議会は町民の生命と財産を断固として守る立場から、今般のMV-22オスプレイの沖縄配備に対し、満身の怒りを込めて抗議するとともに、下記事項の実現を強く要求する。

以上、決議する。

記

1. 垂直離着陸輸送機MV-22オスプレイ沖縄配備を撤回せよ

平成24年6月22日
沖縄県金武町議会

宛 先
駐日米国大使
在沖縄米国総領事

可 決

平成 24 年 6 月 22 日
金武町議会議長 仲里全孝